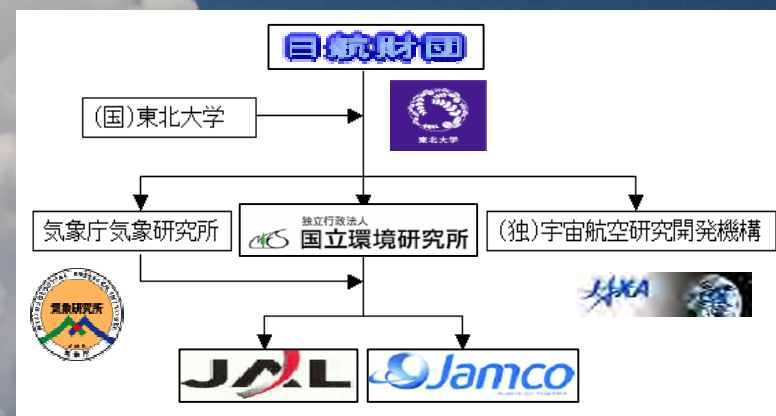


観測の拡大(2006年から)

1. 2006年から、国立環境研究所は日航財団や気象研究所、JAXA（宇宙航空研究開発機構）などと協力して、
2. 観測旅客機をボーイング747 2機、ボーイング777 3機の計**5機**に拡大。
それに伴い**観測地域**も東南アジア、欧州、アメリカまで**拡張**しました。

さらに、



新しい観測体制



ASE	ASE			
自動大気採取装置				
CME	CME	CME	CME	CME
747-400 (JA8917)	747-400 (JA8921)	777-200 (JA705J)	777-200 (JA703J)	777-200 (JA707J)
05年11月~	06年02月~	06年06月~	06年10月~	06年11月~
連測測定装置				

新しい使用旅客機

実際に搭載されている観測装置

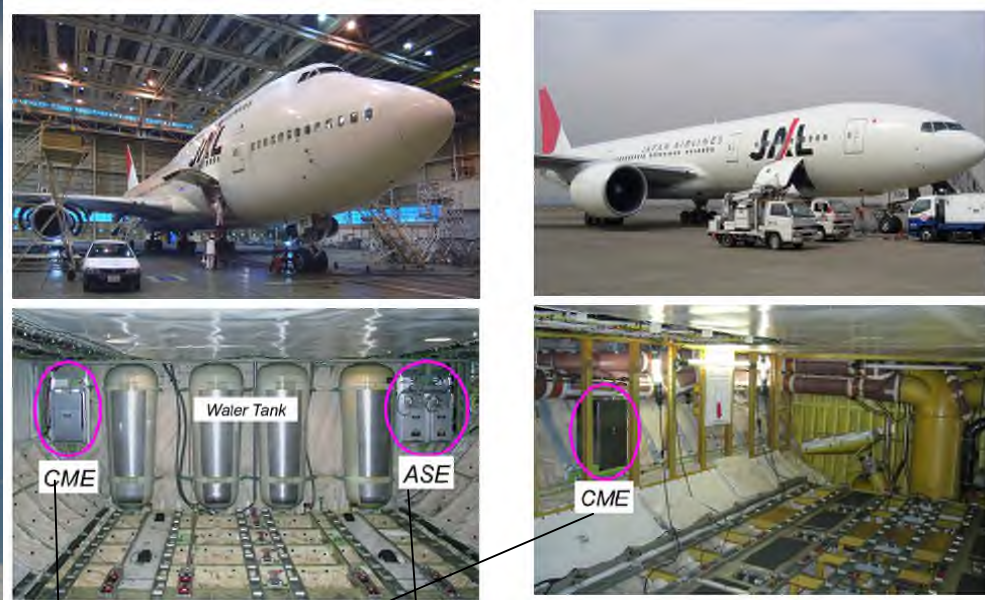


連続観測装置 (CME) 自動大気採取装置 (ASE)

日航財団のホームページより
http://www.jal-foundation.or.jp/shintaiikansoku/Contrail_index1.htm

3. 自動大気採取装置 (ASE) で上空で詰めた空気を、後日地上で精密に分析するだけでなく、連続測定装置 (CME) で飛びながらその場で連続的に観測します。
4. 自動大気採取装置 (ASE) では、観測対象気体を3種類から8種類に拡大しました。
5. 観測装置は、日米両航空当局の追加型式設計承認を取得したことにより、同型機であればどの飛行機にでも搭載できるようになりました。

観測旅客機への観測装置の搭載



<ボーイング 747-400>

<ボーイング 777>

連続測定装置

自動大気採取装置

両機とも貨物室内に観測装置が設置されています。

